


高崎支局一司

「いづれも米国・ニュー
市在住」の三人が六日正
長崎市福田本町の福田
寒中水泳をする。いづれ
相を折る「黙想家」は寒
の前後には黙想風景も描
。

「フツさんは昨年九月、國
十周年を祝うためにペリ
ランス間のドーバー海峡
人で泳ぎ切った身長二尺の
「フツマン」。「國際平和年」
世界平和に貢献できる道は
か」と考え、被爆國日本
中水泳を思ひ立った。
一足早く長崎市入りした
さんは「長崎は暗い原爆の
から立ち直ったたくまし
私たちと一緒に平和を
この國際平和年を盛り
「フツマン」は、出来るだけ
の人が参加することを期待
。



「フツマン」は、出来るだけ
の人が参加することを期待
。

「フツマン」は、出来るだけ
の人が参加することを期待
。



「フツマン」は、出来るだけ
の人が参加することを期待
。

「フツマン」は、出来るだけ
の人が参加することを期待
。

高崎支局一司

「いづれも米国・ニュー
市在住」の三人が六日正
長崎市福田本町の福田
寒中水泳をする。いづれ
相を折る「黙想家」は寒
の前後には黙想風景も描
。

「フツさんは昨年九月、國
十周年を祝うためにペリ
ランス間のドーバー海峡
人で泳ぎ切った身長二尺の
「フツマン」。「國際平和年」
世界平和に貢献できる道は
か」と考え、被爆國日本
中水泳を思ひ立った。
一足早く長崎市入りした
さんは「長崎は暗い原爆の
から立ち直ったたくまし
私たちと一緒に平和を
この國際平和年を盛り
「フツマン」は、出来るだけ
の人が参加することを期待
。

朝日新聞

発行所 北九州市小倉北区砂津町丁目
12番1号(郵便番号803)
朝日新聞西部本社
電話 (093) 531-1131
郵便振替口座 福岡0-2960番
©朝日新聞西部本社 1986

生産性アップで
未来を拓く

省エネの総合メーカー

TLV


Uターンの足氷づけ

積雪で交通網寸断

Uターンピークの五日、九州・西中国地方は大陸からの厳しい寒気の流れ込みが続き、強い北西風とともに終日雪が舞い、水つけになった。南国の鹿児島県市内で積雪一八センチ、指折ではすでに満開の菜の花がスッポリ雪におおわれるなど一面銀世界。この影響で陸、空とも交通網は寸断され、関東、関西に引越す帰省客が直撃を受けた。

(19面)関係記事

鹿児島市内で18センチ



水と平和の想

平和を願う人3人

和正のスタートを祝う

基金)職員のアディワータ・キ

トワソンさん、国連事務

アディワータさん

トワソンさん

局職員シラタ、ハワードさん
合意し、いずれも米国・ニミエ
1ク市在住の三人が六日正午
から、長崎市福田本町の福田海
岸で寒中水泳をする。いまだむ
平和を祈る「黙想家」で、寒中
水泳の前夜には黙想風貌も披露
する。い、

キーワさんは昨年九月、国連
四十周年を祝うためにイギリス
1フランス間のドーバー海峡を
一人で泳ぎ切った身長一七〇の
スポーツマン。「国際平和に何
か世界平和に貢献できる道はな
いのか」と考え、被爆国日本での
平和風潮を思い立った。

「長崎市長崎市入した中
トワソンは「長崎は暗い歴史の過
去から立ち直ったたくましい
町。私たちと一緒に平和を祈
り、この国際平和年を盛り上げ
ましょう」と、出来ただけ多く
の人が参加することを期待して
いる。

**TODAY: MIDWINTER SWIM
AND PEACE MEDITATION**



アディラーダ
・キーフさん

1986.1.6
国際平和年の米人3人
国際平和年のスタートを祝う
て米国人のニゼフ(国連児童
基金)職員のアディラーダ・キ
ーフさん(左)、アンソニー・デイ
ヴィッドソン(中)、アドヒラタ

きょうは寒中水
泳と平和瞑想

ASAHI SHIMBUN
Nagasaki
January 6, 1986

To commemorate the start of the International Year of Peace three Americans plan a midwinter swim, beginning at noon, in the cold waters at the Fukuda shore in Nagasaki's Fukuda-cho: UNICEF staff members Adhiratha Keefe (38) and Samil Davidson (38) and United Nations Secretariat staff member Shradha Howard, all New York residents. All three are "meditators" who pray for peace before and after their swim in the icy water.

Keefe is a sportsman two meters tall, who in September of last year swam alone across the English Channel between England and France to commemorate the 40th Anniversary of the United Nations. Thinking, "Isn't there a way I could contribute something to world peace during the International Year of Peace," he thought of doing the midwinter swim in Japan, the country which had suffered the atomic bomb.

Keefe, who had just come to Nagasaki, said, "Nagasaki is a resolute city which has recovered from the dark past of the bombing. Praying together for peace, let's enthusiastically support the International Year of Peace." He hopes that, as many people as possible will participate.

国際平和年の米人3人
国際平和年のスタートを祝う
て米国人のニゼフ(国連児童
基金)職員のアディラーダ・キ
ーフさん(左)、アンソニー・デイ
ヴィッドソン(中)、アドヒラタ

**THREE AMERICANS SWIM FOR THE
INTERNATIONAL YEAR OF PEACE**

**LET WORLD PEACE REIGN:
THEME OF MIDWINTER SWIM**

With their hope that peace will reign all over the world, three Americans swam in the cold waters off Fukuda Beach in Nagasaki City on January 6.

They swam for twenty minutes with the water temperature at 8°C. Children from Nagasaki came to support them with signs that read "Se-ka-i-he-wa" (world peace) — see photo.

The swimmers were staff members from UNICEF (United Nations Children's Fund), Mr. Adhiratha Keefe (38) and Mr. Samil Davidson (38), and from the United Nations Secretariat, Mr. Shradha Howard (33). The three were inspired to swim in the cold waters of Nagasaki, one of the cities which suffered from the atomic bomb, as a way to contribute to world peace.

Mr. Keefe has swam across the English Channel from England to France.

One of the swimmers commented, "The water was extremely cold, but the children also came in the water with us and it encouraged us. Let us all pull together to establish world peace," he said with a smile.

ASAHI SHIMBUN
Nagasaki
January 7, 1986

朝日新聞 西部本社

1986.1.7 83

た。水温八度の海で約二十分。長崎の子たちも「せ・か・い・へ・い・わ」のカードを手に応援した。

▽ニゼフ(国連児童基金)職員のア・キーフさん(左)、S・デービッドソンさん(中)、国連事務総局職員のス・ハワードさん(右)。国際平和年を迎え、「平和に賛成である道」と、被爆地長崎での寒中水泳を思い立った。

▽キーフさんは長崎のドーバー海峡を泳いで横断した経歴の持ち主。「とても冷たかったが、子供たちも一緒に入ってくれて、勇気がわきました。力を合わせて世界平和を」と、ニコニコ。

▽世界中が平和になれと米国人三人が六日、大津波に襲われた長崎市の海田海岸で寒中水泳に挑戦した。

高額療養費

患者負担分
3000円アップ

患者一部負担の改定 (単位：円)

	現 行	改 定	
高額療養費限度額	51,000	54,000	1カ月
診療報酬	93,000	93,600	年間
老人保健	【外来】400	1,000	1カ月
	【入院】300 (2カ月限度)	500 (限度なし)	1日

(注) 診療報酬：サラリーマン健保の標準世帯(妻と子供2人)平均額。
老人保健：改正案成立後、6月実施方針。



発行所 広島市中区上橋町7番
1号 郵便番号730
中国新聞社
電話(082)236-2111(受付案内台)
郵便振替口座 広島7-57番
©中国新聞社 1986

月

平和訴え寒中水泳

【長崎】国連の国際平和年を記念し、世界平和実現のため一人一人の努力をアピールしよう、と六日、ニューヨーク市の国連本部に勤務する米職員三人が、長崎市福田本町の福田ヨットハーバーで約二時間の寒中水泳を行った。写真。

三人はユニセフ(国連児童基金)職員アディラタ・キーフさん(左)と同スニール・デヒッドソンさん(中)、国連事務局職員シュラーダ・ハワードさん(右)。
キーフさんは、国連職員



に平和のための願いを教えているインド人のシュリ・チンモイ氏(左)が、今月京都と名古屋で平和コンサートを行うため来日した。一日常の国連での仕事以外に、平和をもちたすために必要な個人の努力を訴えるため、被爆地・ナガサキでの寒中水泳を選んだ。

風見鶏号首位ゴール

日本外洋帆走協会に六日入った連絡によると、昨年十二月二十九日に神奈川・横須賀新港沖をスタートした日本最大の外洋ヨットレース「ジャパンリーグ・ヨットレース」(出場七隻で、風見鶏(かきみどり)号(榊正寛オーナー)が現地時間六日午前十時三十分(日本時間六日午前九時三十分)、ゴールのクアム島アラハーバーにトップで到着した。同号の所要時間は7日間と22時間30分21秒。



CHUGOKU SHIMBUN
Nagasaki
January 7, 1956

**MIDWINTER SWIM AS
APPEAL FOR PEACE**

On January 6, to make an appeal for the efforts of each person for the manifestation of world peace and commemorating the United Nations International Year of Peace, three American staff members at United Nations Headquarters made an approximately 1.2-kilometer midwinter swim in the Fukuda Yacht Harbor in Fukuda Honmachi in Nagasaki.

The three are UNICEF staff members Adhiratha Keefe (38) and Sunil Davidson (38) and United Nations Secretariat staff member Shradha Howard.

Keefe and his colleagues are in Japan with Sri Chinmoy (54), an Indian spiritual Master who leads meditations for peace for United Nations staff members. Sri Chinmoy will give Peace Concerts this month in Kyoto and Nagoya.

"Apart from our daily work at the United Nations, we appeal for the efforts of individuals, which are necessary to bring about peace," they say, and have chosen Nagasaki, site of the atomic bombing, for their midwinter swim.

61. 1. 7

長崎新聞

寒中水泳で平和祈願

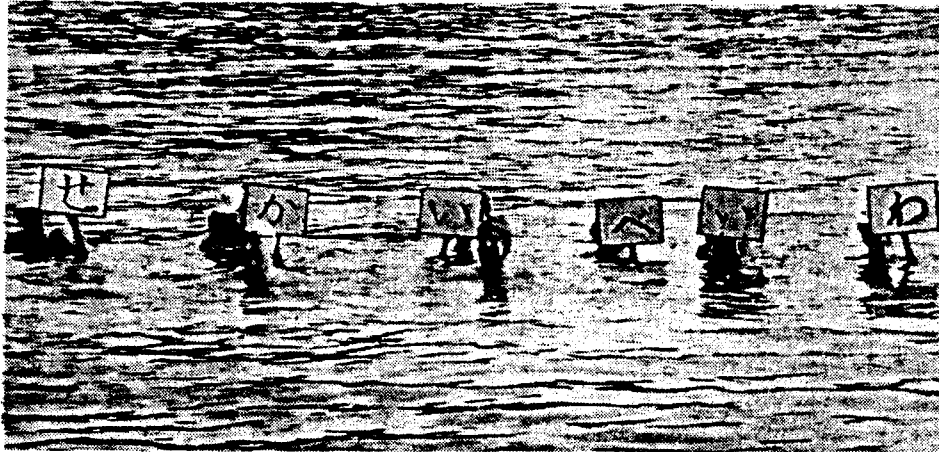
米国の国連職員3人

長崎

被爆地から世界へ

小堀流の子らも一緒に

国際平和年の幕開けに当たり、まず被爆地から世界平和をアピールし平和コンサートするため来日している米国人の国連職員三人が六日、長崎市福田本町の福田ヨットハーバーを訪れ、厳寒の海を泳いで恒久平和を祈願した。また趣旨を知った小堀流長崎水会（兼松智会長）の子供たちも一緒に歓迎の寒中水泳を行い、国際平和年のスタートを祝福した。



小堀流長崎水会の子供たちが水書した「せかいへいわ」を背にして泳ぐ国連職員



手を合わせて世界平和を祈願する3人の国連職員＝長崎市福田本町、福田ヨットハーバー

来崎したのはユニセフ（国連児童基金）職員のアディラタ・キープさん（左）とスニール・デビットソンさん（中）、国連事務総局職員ジュラダー・ハワードさん（右）の3人。ニューヨーク市在住の3人、国連職員らでつくっている「平和のための黒煙クラブ」のメンバーで、クラブの指導者ジュリ・チンモイさんに導かれて日本を訪れた。チンモイさんは作業者としても知られ、八日に京都、十一日名古屋で平和コンサートを行う予定。キープさんは昨年九月、

運四十年を祝って、英仏蘭のドーバー海峡を一人で泳ぎ切ったスポーツマン。他の二人も同様に挑戦するた。現在、トレーニング中。世界唯一の被爆地を訪れた三人は、今年が国連児童の国際平和年に当たることから「被爆地の海を泳いで平和を祈り、平和年を盛り上げたい」と寒中水泳を計画。元日には広島県佐伯郡宮島町の厳島神社を参拝した。福田ヨットハーバーそばの浜辺は雪が残り、気温三・七度、本朝八度（正午現在）といふ寒さ。長崎国際文化会館が

ら連絡を受けた小堀流長崎水会の小、中高生十一人も駆けつけて賛助水泳を申し出。会員の岡部公司さん（右）が古式泳法の甲ちゅう泳ぎを披露した後、子供たちは元氣よく水しぶき「せかいへいわ」と水書する子供たちに合わせて、三人は国際平和を祈願して静かに泳いだ。岡部公司の松永照正館長の拍手に送られて、約三十分間で一、二泳ぎを泳ぎ切った。水から上がったキープさんは「泳ぐことも、出迎えた水会の子供たちとガッツリ握手。キープさんは「被爆地がサキの子供たちと心を一つにして泳ぐことができ感激した。平和を願う心を世界中に広めたい」と話し、子供たちとお互いの健康をたたえ合っている。

運を舞台として非常任理事国への立候補の重要性は、アジア・パシフィック各国外務省への機回しを活動化させる。日本は五九一六〇、六七〇、六八、七二七二、七五七七、八一八二年度と過去五回にわたって非常任理事国を務めており、ことし当選すれば六回目となる。政府専門家会議に關しては、既に日本として高橋秀元国連大使を委員に推薦、署名のとりまとめや、その後の行政改革実施の場でも主導的役割を果たしていくことにしている。

よく水しぶき「せかいへいわ」と水書する子供たちに合わせて、三人は国際平和を祈願して静かに泳いだ。岡部公司の松永照正館長の拍手に送られて、約三十分間で一、二泳ぎを泳ぎ切った。水から上がったキープさんは「泳ぐことも、出迎えた水会の子供たちとガッツリ握手。キープさんは「被爆地がサキの子供たちと心を一つにして泳ぐことができ感激した。平和を願う心を世界中に広めたい」と話し、子供たちとお互いの健康をたたえ合っている。

寒中水泳で平和祈願

米国の国連職員3人

NAGASAKI SHIMBUN
Nagasaki
January 7, 1986



小堀流長崎水泳会の子供たちが水書した「せいかいへいわ」を背にして泳ぐ国連職員



手を合わせて世界平和を祈願する3人の国連職員—長崎市福田本町、福田ヨットハーバー—

国際平和年の再開に当たり、まず被爆地から世界平和をアピールし、平和コンサートのため来日している米国人の国連職員3人が六日、長崎市福田本町の福田ヨットハーバーを訪れ、厳寒の海を泳いで恒久平和を祈願した。また趣旨を知った小堀流長崎水泳会（兼松智会長）の子供たちも一緒に泳いで歓迎の寒中水泳を行い、国際平和年のスタートを祝した。

長崎

被爆地から世界へ

小堀流の子らも一緒

よく水しぶき。「せいかいへいわ」と水書する子供たちに合わせて、三人は国際平和を祈願して静かに泳いだ。同会員の松永照正館長の拍手に送られて、約三十分間で一、二泳ぎを泳ぎ切った。

水から上がったキープさんらは疲れも見せず、出迎えた水泳会の子供たちとガッツリ握手。キープさんは「被爆地ナガサキの子供たちと心を一つにして泳ぐことができて感動した。平和を願う心を世界中に広めたい」と話し、子供たちとお互いの顔をたたえ合っていた。

ら連絡を受けた小堀流長崎水泳会の小、中、高学年十一人も駆けつけて寒中水泳会に参加。会員の岡部公明さん（67）が古式泳法「甲子」の泳ぎを披露した後、子供たちは元氣

して非常任理事国への立候補のため、アジア・パシフィック各国への巡回しを活発化させる。日本は五九一六〇、六七一六八、七一七二、七五七七六、八一八二年度と過去五回にわたり非常任理事国を務めており、ことし選挙すれば六回目となる。

政府専門委員会に關しては、既に日本として渡邊朝男元国連大使を委員に推薦。各甲のとりまとめや、その後の行財政改革実施の準備も主導的役割を果たしていくこととしている。

来崎したのはユニセフ（国連児童基金）職員のアディラタ・キープさん（心とスニール・デビットソンさん）と、国連事務総長副官ジュラーダ・ハリッドさん（モイイナ）もニューヨーク市在住の三人、国連職員らでつくっている「平和のための熱帯クワダ」のメンバーで、クラブの指導者ジュリ・チンモイさんに導かれて日本を訪れた。チンモイさんは作曲家としても知られ、八日に京都、十一日名古屋で平和コンサートを行う予定。

キープさんは昨年九月、越

来崎したのはユニセフ（国連児童基金）職員のアディラタ・キープさん（心とスニール・デビットソンさん）と、国連事務総長副官ジュラーダ・ハリッドさん（モイイナ）もニューヨーク市在住の三人、国連職員らでつくっている「平和のための熱帯クワダ」のメンバーで、クラブの指導者ジュリ・チンモイさんに導かれて日本を訪れた。チンモイさんは作曲家としても知られ、八日に京都、十一日名古屋で平和コンサートを行う予定。

キープさんは昨年九月、越

「被爆地の海を泳いで平和を祈り、早稲年を盛り上げたい」と寒中水泳を計画。元日には広島県佐伯郡高島町の厳島神社沖を泳いだ。

福田ヨットハーバーそばの浜辺紅葉が残り、気温三・七度、水温八度（今年現在）といふ寒さ、長崎国際文化会館から

寒中水泳で平和祈願

米国の国連
職員3人

NAGASAKI SHIMBUN
Nagasaki
January 7, 1986

長崎

被爆地から世界へ

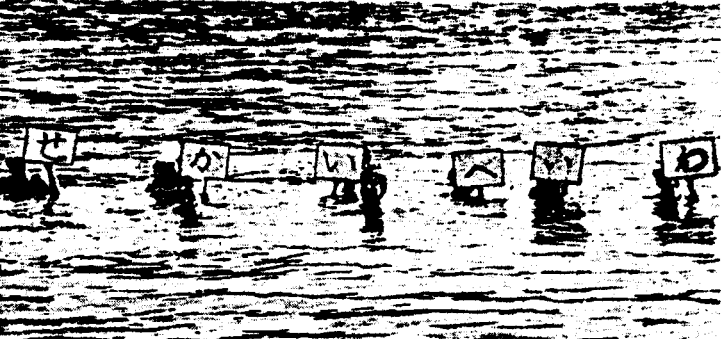
小堀流の子らも一緒に

よく水しぶき、「せいかいへい」
わ」と水着する子供たちが白
わびて、五人は国際平和を祈
願して静かに泳ぎ、
の海水は冷たいが、
らぬ、
を泳ぎ始めた。
水から上がったキープさん
多様な言葉を、出迎えた
静かな子供たちとキープさん
キープさん、
ボサキの子供たちも一つ
にして泳ぐことを決意し
た。平和を願う心は世界中
に広がり、
お互いの願いをたえがいて

ら泳ぎを始めた小堀流児童
本日の小堀流児童十一人も
駆けつけて、
出、
が、
演習した。子供たちも

して非核兵器禁止国への又々
のなか、
への
を、
六八、
六八、
は、
元、
の、
行、

国際平和年の開けに当たり、まず被爆地から世界平和をアピールする国際コンサートのため来日している米
国人の国連職員三人が六日、長崎市福田町の小堀流ヨットハーバーを訪れ、児童の協力を得て、
また、
スタートを切った。



小堀流児童游泳水会の子供たちが水着した「せいかいへい」を背にして泳ぐ国際職員



手を合わせて世界平和を祈願する3人の国連職員＝長崎県福田町、福田ヨットハーバー

来日したのはユニセフ、
連地連連連、
タ・キープさん、
ル・デビッドソンさん、
国際連盟職員ジュンダ、
ハワードさん、
ニューヨーク市在住の三
人、
「平和のなみだ」
のメンバーで、
行して日本を訪れた、
イさん、
れ、
で、
キープさんは、

THREE STAFF MEMBERS FROM THE UNITED NATIONS SWIM IN THE COLD WATER, PRAYING FOR PEACE AND CARRYING THE MESSAGE OF PEACE FROM THE A-BOMBED CITY, NAGASAKI, TO THE WORLD AT LARGE

To start the International Year of Peace, three American staff members of the United Nations who are in Japan on a Peace Concert Tour, strived to carry the message of peace from the A-bombed city Nagasaki to the world at large by swimming in the cold water at Fukuda Yacht Harbour in Nagasaki City on the 6th of January.

Children from the Kohori-ryu Swimming Club welcomed the three by demonstrating the traditional Japanese swimming technique in the cold ocean and celebrated with them the beginning of the International Year of Peace.

Adhiratha Keefe (38 years old) and Sunil Davidson (38 years old) from UNICEF, and Shradha Howard (55 years old) from the United Nations Secretariat are members of the Peace Meditation Group at the United Nations. They came to Japan with the leader of the Peace Meditation at the United Nations, Sri Chinmoy. Sri Chinmoy is also known as a composer and musician and will be giving Peace Concerts in Kyoto on the 8th and in Nagoya on the 11th.

Adhiratha Keefe is a dedicated swimmer who crossed the English Channel last September in a solo swim to honour the 40th anniversary of the United Nations. Mr. Davidson and Mr. Howard

While visiting Japan, the only country which experienced the tragedy of the A-bomb, the three were inspired to do a midwinter swim in the ocean of the A-bombed city of Nagasaki to pray for peace and to support the International Year of Peace.

On the 1st of January they also swam 2 kilometres near the Kurushima Shrine in Hiroshima. There was snow on the beach by the Fukuda Yacht Harbour. The temperature was 2.3°C and the water temperature got as cold as 8°C.

After being informed about the event by the Nagasaki International Cultural Center, 11 students from the elementary, junior and senior high schools who belong to the Nagasaki Swimming Club came to offer their support. A member of the Club, Mr. Koji Okada (49 years old), demonstrated the classical "hocha" swimming technique and afterwards the children swam in the water. While the children held up signs which said "World Peace," the three swimmers meditated quietly for world peace. Observers, including the President of the International Cultural Center, Mr. Terumasa Matsumaga, applauded the swimmers, who finished their 1-kilometre swim in about half an hour.

Mr. Keefe came out of the water without showing any sign of fatigue and shook hands with the children from the swimming club. Mr. Keefe said, "I am very inspired to have joined my heart together with the children from Nagasaki, which suffered from the atomic bomb. I would like to convey our hearts' wish for peace for the world at large."

寒中水泳で平和祈願

米国の国連
職員3人

NAGASAKI SHIMBUN
Nagasaki
January 7, 1986

長崎

被爆地から世界へ

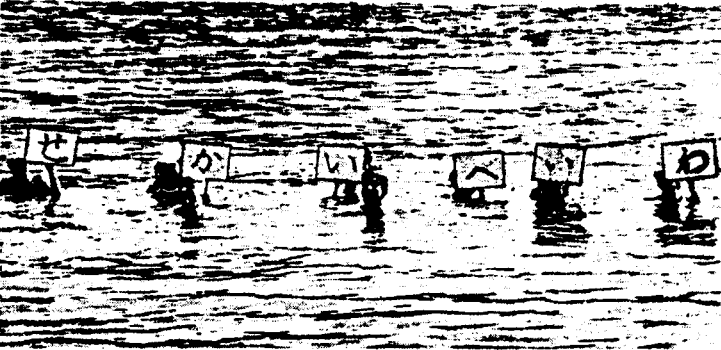
小堀流の子らも一緒に

国際平和年の幕開けに当たり、まず被爆地から世界平和をアピールする平和コンサートのため来日している米国人の国連職員3人が6日、長崎市福田町の福田ヨットハーバーを訪れ、激寒の海を泳いで遠く平和を祈願した。また連年行っていた小堀流児童運動会、兼松留会長の「子供たちも一緒に」の一環として、国際平和年のスタートを祝した。

よく水しぶき一帯かいへわ
わ」と水しぶきをかき立てて
お互いの顔を見て喜び合っ
て、平和を願う心を世界中に
広めた。約30分間で、余
水を泳ぎ、水から上がったキーフさん
多は濡れも臭い、出迎えた
福国会の子供たちもカチリ
と手、キーフさんには「おはよう
ゴサキの子供たちもよく泳ぎ
に、平和を願う心を世界中に
広めた。約30分間で、余
水を泳ぎ、水から上がったキーフさん
多は濡れも臭い、出迎えた
福国会の子供たちもカチリ
と手、キーフさんには「おはよう
ゴサキの子供たちもよく泳ぎ
に、平和を願う心を世界中に
広めた。約30分間で、余

ら連絡を受けた小堀流児童
水泳の小中、高生11人も
駆けつけて救助水泳を申し
出、会場の関係者も入るこ
が正式練習の準備を済ませ
練習した。子供たちは元気

して非常任務国への又々
のため、フジ・プロパ
国への支援として、
を、日本は五九、一六、
六八、七二、七五、
六八、一八、二五、
回にわたって非常任務
であり、ことしは遊
六回となる。
政府機関を通じて
は、長崎でも七、
元国連大会委員に推薦、
申のときとや、その後
行政事務の国でも主
的役割を担うことと



小堀流児童運動会の子供たちが水泳した「せかいへいわ」を背にして泳ぐ国連職員



手を合わせて世界平和を祈願する3人の国連職員(左から福田ヨットハーバー)

来訪したのはユニセフ
運使員、職員のアキラ
タ・キーフさん(心とス
ル・デビッドソンさん、
国連事務局長シムラ
ハワードさん)といわれ
ニューヨーク市在住の三
人、国連職員として
「平和のための国際ラン
のメンバーで、クラブの
メンバー・チンモイさん
行して日本を訪れた。チン
イさんは作曲家としても
れ、八日(水)午後、十一
で平和コンサートを行う
キーフさんは昨年九月、
水泳八度(五年連続)と
、長崎国際文化会

THREE STAFF MEMBERS FROM THE UNITED NATIONS SWIM IN THE COLD WATER, PRAYING FOR PEACE AND CARRYING THE MESSAGE OF PEACE FROM THE A-BOMBED CITY, NAGASAKI, TO THE WORLD AT LARGE

To start the International Year of Peace, three American staff members of the United Nations who are in Japan on a Peace Concert Tour, strived to carry the message of peace from the A-bombed city Nagasaki to the world at large by swimming in the cold water at Fukuda Yacht Harbour in Nagasaki City on the 6th of January.
Children from the Kohori-ryu Swimming Club welcomed the three by demonstrating the traditional Japanese swimming technique in the cold ocean and celebrated with them the beginning of the International Year of Peace.
Adhiratha Keefe (58 years old) and Sunil Davidson (58 years old) from UNICEF, and Shraddha Howard (55 years old) from the United Nations Secretariat are members of the Peace Meditation Group at the United Nations. They came to Japan with the leader of the Peace Meditation at the United Nations, Sri Chinmoy. Sri Chinmoy is also known as a composer and musician and will be giving Peace Concerts in Kyoto on the 8th and in Nagoya on the 11th.
Adhiratha Keefe is a dedicated swimmer who crossed the English Channel last September in a solo swim to honour the 40th anniversary of the United Nations. Mr. Davidson and Mr. Howard

While visiting Japan, the only country which experienced the tragedy of the A-bomb, the three were inspired to do a midwinter swim in the ocean of the A-bombed city of Nagasaki to pray for peace and to support the International Year of Peace.

On the 1st of January they also swam 2 kilometres near the Huroshima Shrine in Hiroshima. There was snow on the beach by the Fukuda Yacht Harbour. The temperature was 2.3°C and the water temperature got as cold as 8°C.

After being informed about the event by the Nagasaki International Cultural Center, 11 students from the elementary, junior and senior high schools who belong to the Nagasaki Swimming Club came to offer their support. A member of the Club, Mr. Koji Okada (49 years old), demonstrated the classical "hocks" swimming technique and afterwards the children swam in the water. While the children held up signs which said "World Peace," the three swimmers meditated quietly for world peace. Observers, including the President of the International Cultural Centre, Mr. Terutsuna Matsumaga, applauded the swimmers, who finished their 1-kilometre swim in about half an hour.

Mr. Keefe came out of the water without showing any sign of fatigue and shook hands with the children from the swimming club. Mr. Keefe said, "I am very inspired to have joined my heart together with the children from Nagasaki, which suffered from the atomic bomb. I would like to convey our hearts' wish for peace for the world at large."

**国際職員 平和訴え
長崎で寒中水泳**

【長崎】国際連合の平和年を記念し、世界の平和実現のため一人一人の努力をアピールしよう、と本日、ニューヨークの国連本部に勤務する米職員3人が、長崎市瀬田本町の福野ヨットハーバーで約1.5kmの寒中水泳を行った。

3人はユニセフ（国連児童基金）職員アディラケ・キープさん（38）と副スニール・デビッドソンさん（38）、国連事務次長補佐シュラダ・ワードさん（33）。

キープさんらは、国連職員に平和のための努力を訴えているインド人のシュリ・ラモイ氏（55）が、今年初めと名古所で平和コンサートを行うため来日した。【国連の国連での仕事以外に、平和をもたらすために必要な個人の努力を訴える】ため、福野港、ナガサキでの寒中水泳を選んだ。

この日は朝の気温は氷点下、風速12km。キープさんは泳ぎながら1枚の紙を掲げた。その紙には「平和を求めよう」とある。



寒中水泳の前にめいめいするアディラケ・キープさん（左端）と長崎市瀬田本町の福野ヨットハーバー

TOKYO TIMES
Nagasaki
January 7, 1986

**MIDWINTER SWIM
APPEALS FOR PEACE**

On January 6, to commemorate the United Nations International Year of Peace, three American staff members of the United Nations swam approximately 1.5 km in Fukuda Yacht Harbour in Nagasaki, making an appeal for the efforts of each individual to further world peace.

The three swimmers, UNICEF staff members Adiratha Keefe (38) and Supri Davidson (38) and United Nations Secretariat staff member Shradha Howard, are in Japan on a Peace

Concert tour with Sri Chinmoy, an Indian spiritual Master who leads meditations for peace for United Nations staff members. Sri Chinmoy will give Peace Concerts this month in Kyoto and Nagoya.

"Apart from our daily work at the United Nations, we appeal for the efforts of individuals, which are necessary to bring about peace," they said, and thus they chose Nagasaki, site of the atomic bombing, for their midwinter swim.

国際平和年幕開け
 3国連職員
 が寒中水泳
 平和コンサートツアーで来
 日中の国連ユニセフ職員、ア
 ディラタ・キープ氏(左)▽



同、スニール・デビットソン
 氏(中)▽国連事務局職員、シ
 ユラーダ・ハワード氏(右)の
 三人の米国人が六日、国際平
 和年の幕開けを祝って長崎市

で小堀流長崎踏水会の子供た
 ちと寒中水泳をした。写真。
 水温八度、肌を刺すような
 冷たい海風の中で、まず、小
 学生から高校生までの踏水会
 の男女十人が海へ入り立ち泳
 ぎをしながら墨で文字を書き、
 水書で「せかいへいわ」と書
 き三人を歓迎。

MAINICHI SHIMBUN

Nagasaki

January 7, 1986

BEGINNING OF THE INTERNATIONAL
 YEAR OF PEACE
 3 UNITED NATIONS STAFF
 SWIM IN THE COLD WATER

While visiting Japan for a Peace Concert tour, two staff members of UNICEF, Mr. Adhiratha Keefe (38), Mr. Sunil Davidson (38), and United Nations Secretariat staff member Mr. Shradha Howard (33) — all three Americans — swam in the cold waters of Nagasaki City with children from the Nagasaki Kohori-ryu Swimming Club, celebrating the beginning of the International Year of Peace (see photo) on the 6th of January.

The water temperature was 8°C. In the cold ocean water, ten boys and girls from the swimming club received the three by drawing characters that said "world peace" with a paint brush while standing in the water.



▼三國平和
年を成功させま
うと六月
四時三十分
時、長崎の海で水中水
泳をし、平和の平和を祈
た。

▼平和の平和を祈る中、海中へ。
▼三國平和
年を成功させま
うと六月
四時三十分
時、長崎の海で水中水
泳をし、平和の平和を祈
た。

▼平和の平和を祈る中、海中へ。
▼三國平和
年を成功させま
うと六月
四時三十分
時、長崎の海で水中水
泳をし、平和の平和を祈
た。

YOMIURI SHIMBUN

Nagasaki

January 7, 1986

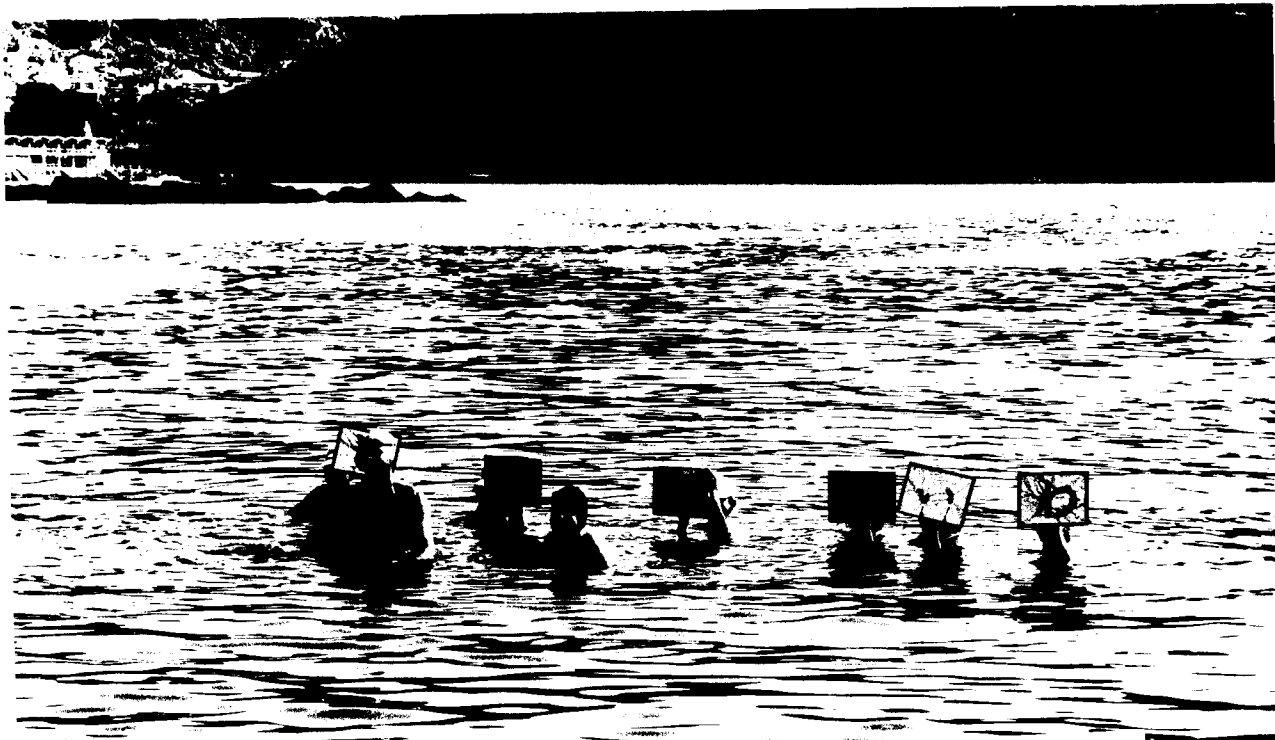
SWIMMING FOR PEACE

With the hope of establishing world peace, three United Nations staff members swam in the cold water off Nagasaki, one of the cities which suffered from the atomic bomb, and prayed for world peace on January 6.

Mr. Adhiratha Keefe (58), a staff member of UNICEF, and two others who are also visiting Japan in order to participate in a Peace Concert tour, dove into the water holding a banner that read "world peace" written in both Japanese and English. It was snowing during their swim at Fukuda Beach near Nagasaki City, just 5 kilometres from the point where the bomb was dropped.

Mr. Keefe, who swam the English Channel last summer, swam 2 kilometres; the other two swam 1 kilometre each. Ten children from the Nagasaki Swimming Team supported the three swimmers in the water by holding signs which read "world peace."

The photo shows the three praying for peace before the start of the swim. From left, Mr. Keefe, Mr. Davidson and Mr. Howard.



NISHINIHON SHIMBUN

Nagasaki

January 7, 1986

INTERNATIONAL YEAR OF PEACE
BEGUN BY MIDWINTER SWIMMING
FOR PEACE

On January 6, three staff members from UNICEF and United Nations Headquarters jumped into the icy cold water by Fukuda Beach in Nagasaki and were joined by local school children.


The three, Adhiratha Keefe (38), Sunil Davidson (38) and Shraddha Howard (33), are on a Peace Concert tour in Japan. The children are from the Kohori-ryu Nagasaki Swimming Club, which teaches traditional Japanese swimming techniques.

The three swimmers commented, "We hope to bring people's attention to the necessity of individual efforts for peace." They had previously swum two kilometres around Itsukushima Shrine in Hiroshima on New Year's Day.

Ten boys and girls from the Nagasaki Swimming Club honoured the three swimmers by drawing characters on cards that read "world peace" with a paint brush while bobbing in the water.

The water temperature was an icy 8°C. The swimmers had planned to swim only one kilometre due to the cold water but, inspired by the children, they swam two kilometres.

1月1日... (Vertical text, likely a list of names or dates)



1月1日... (Vertical text on the right side of the photo)

1月1日... (Vertical text on the left side of the photo)

1961年1月1日

KYOTO MARATHON
 11 Jan 65
 5:30 AM

The Japan Times

'All the News Without Fear or Favor'

ISSN 0289-1956
© The Japan Times, Ltd., 1986

Thursday, January 9, 1986

明治30年3月22日第3種郵便物認可
昭和41年4月28日国鉄東局特別扱承認第454号

Meditation Can Help Promote Peace

Sri Chinmoy, director of the "Peace Meditation" group of United Nations staff members stressed in Tokyo that meditation can be of great help to promote world peace by making each individual a better person.

"I have students who, once upon a time, were not good. They used to take drugs, drink, and do all kinds of things. Now they have given them up totally. They are trying to do many, many things good for themselves and for mankind," Chinmoy said.

Describing meditation as something everybody needs like food, the 54-year-old spiritual leader said, "If people eat

enough food, pray, and meditate, then, we develop the capacity to have peace of mind, joy, and satisfaction.

"If you have peace, then you are able to give it to people. But, if you have anger, you give anger to people," he said in an interview with The Japan Times recently.

Chinmoy, a native of India, believes that sports are essential for the mental growth of human beings and he himself is a good marathon runner and lover of tennis.

He proved the power of prayer and meditation by successfully pressing 155 pounds (70 kg) with one arm in September last year after only half a year's training.

"It's not my physical strength. It's my spiritual prayer and meditation. I do not have big muscles as you can see, but I have done it," Chinmoy said.

Chinmoy and his followers founded the Peace Meditation group in 1970 at the request of U.N. staff members. The group holds meditation lessons twice a week at the U.N. headquarters for some 80 ambassadors and



SRI CHINMOY plays the viola at a Peace Concert in Tokyo held recently.

U.N. officials.

Chinmoy's teaching has inspired many of his students to do something challenging. Among them is Adhiratha Keefe, a 38-year-old American staff member of UNICEF.

Keefe swam across the English Channel between England and France in September last year as a "present" to the United Nations on the 40th anniversary of its founding.

Keefe admits he would not have been able to cross the channel, fighting oil slicks, jelly-fish and swift tides without

the help of the power of prayer and meditation.

Chinmoy said, "They (my students) do contribute to the world peace. They inspire people to do something good and challenging."

During his stay in Japan, Chinmoy held "peace meditation concerts" in Tokyo, Kanagawa, Hiroshima and other prefectures. His last session in the country will be held in Nagoya on Jan. 11. For further information, call the Sri Chinmoy Tokyo Center at (03) 362-7038. (H. Masaki)

WE LOVE PEACE

NAGASAKI 1985.8.9

